

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第254集

西近津遺跡群 西近津遺跡XI

長野県佐久市長土呂西近津遺跡発掘調査報告書

2018.3

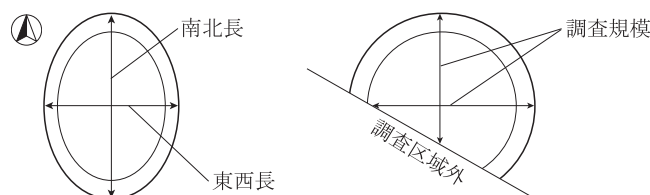
佐久市教育委員会

例言

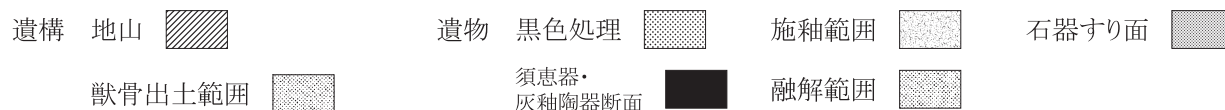
- 1 本書は有限会社 田園不動産による宅地造成工事に伴う、西近津遺跡群 西近津遺跡XIの発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者 有限会社 田園不動産
- 3 調査主体者 佐久市教育委員会
- 4 遺跡名及び発掘調査所在地 西近津遺跡群 西近津遺跡XI (NTXI)
佐久市長土呂字森下1771-4、1772-1
- 5 調査担当者 上原 学
- 6 本書の編集・執筆は上原が行った。
- 7 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡例

- 1 遺構の略称は次のとおりである。 D—土坑 M—溝状遺構 P—ピット
- 2 遺構断面図の標高は遺構ごとに統一し、スケールバー上に値を示した。
- 3 遺構の計測値は以下のとおりである。



- 4 スクリーントーン表示は以下のとおりである。



- 5 遺物の実測図番号と写真番号は対応し、特に記載のないものは実測図1/4、遺物写真1/3、獣骨写真1/4の縮尺で掲載した。
- 6 本書中の方位マークは真北を示し、座標値は世界測地系に準拠している。
- 7 遺物観察表における () は推定値を、[] は残存値を示す。

目次

例言

凡例

目次

第I章 発掘調査の経過 1

第1節 発掘調査の経緯 1

第2節 調査組織 1

第3節 調査日誌 1

第4節 遺構・遺物の概要 1

第II章 遺構と遺物 2

D1・2・3号土坑 2

M1・2号溝状遺構 4

遺物実測図 4

写真図版 6

抄録・奥付



西近津遺跡 X I 位置図 (1:50,000)

第 I 章 発掘調査の経過

第 1 節 発掘調査の経緯

西近津遺跡XIは、佐久市の長土呂地籍に所在し、佐久地方北部に特徴的な田切りに挟まれた台地上に立地する。標高は707m前後を測る。

遺跡の周辺では、道路建設・集合住宅建設等に伴う多くの発掘調査が行われ、西側を南北方向に走る中部横断自動車道建設に先立つ発掘調査（県埋蔵文化財センター調査）では、縄文時代から中世に至る幅広い時期の遺構・遺物が多数調査されている。特徴的な遺構では、長辺18m（46坪）を測る巨大な弥生時代後期の住居址が発見され、注目を集めた。出土遺物では、平安時代の銅印及び貞観八年（866年）に定額寺となった「妙楽寺」に由来する可能性が考えられる、川原寺式の軒丸瓦（鎧瓦）等が出土している。間接的であるが郡衙にも関連する事柄であり、佐久地方の古代史を考える上で、この地域の重要性を改めて認識させるものである。

今回、遺跡群内で有限会社 田園不動産により宅地造成が計画されたことから、遺跡の保護を目的とし、状況を把握するための確認調査を実施した。その結果、住居址等の遺構が発見されたため、遺構の破壊が予測される道路箇所について記録保存を目的とした発掘調査を行う運びとなった。なお、宅地部分で発見された遺構は埋土保存とした。

発掘調査は、表土除去後に4mグリッドを設置し、人力による遺構確認面の精査・遺構検出を行った。その結果、大型土坑・溝状遺構・ピットが確認され、継続して遺構掘削・写真撮影・実測図作成作業を順次行った。

第 2 節 調査組織

調査受託者	佐久市教育委員会	教育長	棚澤 晴樹
事務局	社会教育部長	萩原 幸一	
	文化振興課長	小林 義夫	
	企画幹	小林 登志郎	
	文化財調査係長	大塚 広樹（～9月）	塩川 宏幸（10月～）
	文化財調査係 嘱託職員	小林 眞寿 富沢 一明 上原 学 久保 浩一郎 岩下 琴 森泉 かよ子	
調査担当者	上原 学		
調査員	赤羽根 篤 岩松 茂年 木内 修一 中澤 登 羽毛田 利明 武者 幸彦 山田 叔正 油井 満芳 横尾 敏雄 依田 好行 渡辺 学 柳澤 孝子		

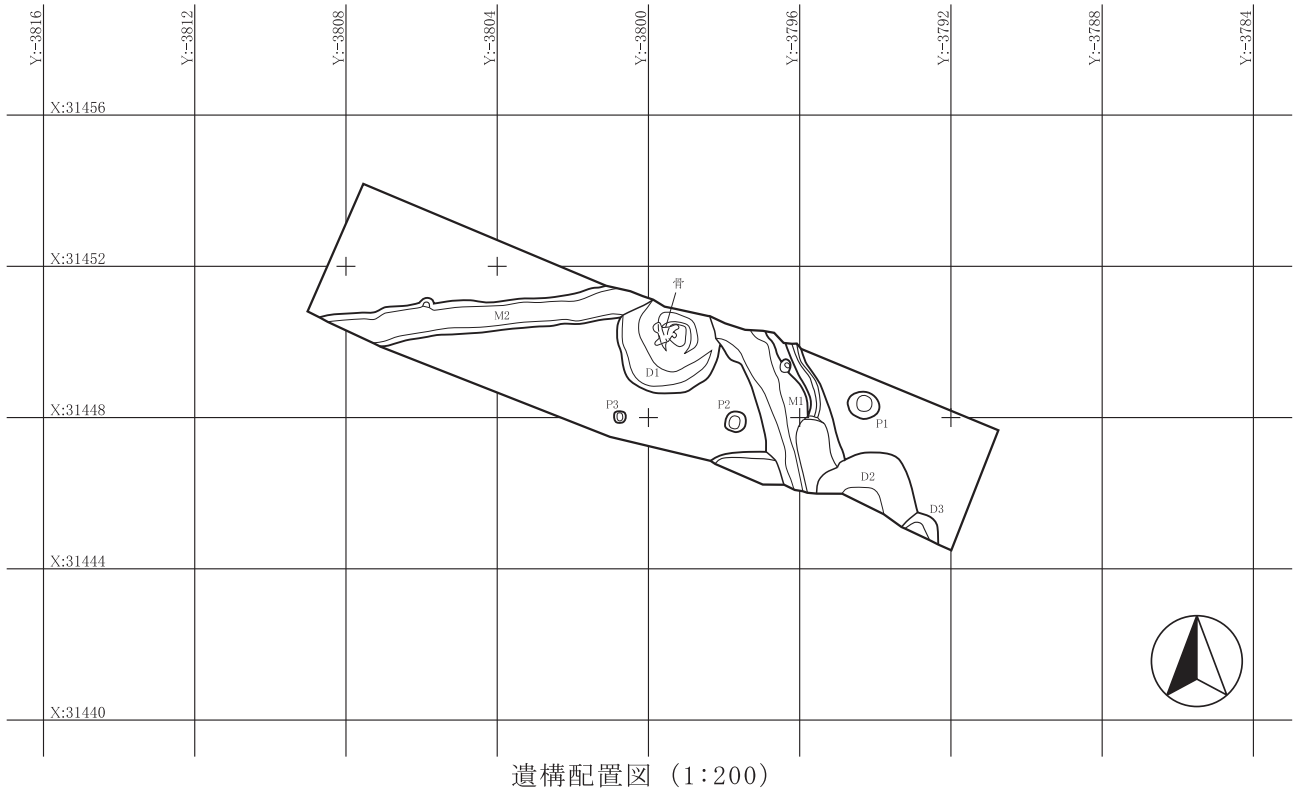
第 3 節 調査日誌

平成29年 8月28日	遺構検出作業。土坑・溝状遺構・ピット掘り下げ開始。
8月29日～	土坑・溝状遺構・ピット掘り下げ。セクション図・平面図作成。遺構写真撮影。調査区内にグリッド杭を打設。
8月30日	調査区内清掃作業後、全景写真撮影。
8月31日	遺構セクション図・平面図作成。機材撤収作業開始。
9月4日～	室内作業開始。遺物洗浄・注記・接合・実測等を順次行う。
平成30年 3月	報告書を刊行し、すべての作業を終了する。

第 4 節 遺構・遺物の概要

遺構 土坑 3 基（平安時代） 溝状遺構 2 条 ピット 3 個

遺物 弥生時代—弥生土器（壺・甕）
 平安時代—須恵器（坏・甕・壺）、土師器（碗・坏・皿・甕）、鉄器（刀子）、羽口
 石器（すり・敲石、軽石製品）、獣骨



第Ⅱ章 遺構と遺物

D 1・2・3号土坑

土坑は3基発見された。

D 1号土坑は調査区中央付近の北寄りに位置し、北側の一部は調査区域外となる。規模は東西2.7m、南北は調査規模で2.4mを測る。形状は円形と考えられ、斜面の途中にテラスを持ち、およそすり鉢状に掘り込まれている。深さは0.9mを測る。

遺構の中央付近には牛骨と考えられる獣骨が集中して発見され、周囲から平安時代の坏などの土器が出土した。土器は表面に「大井」と記された墨書・刻書土器が含まれていた。平安時代の佐久郡八郷の一つである大井郷との関係が窺われる。

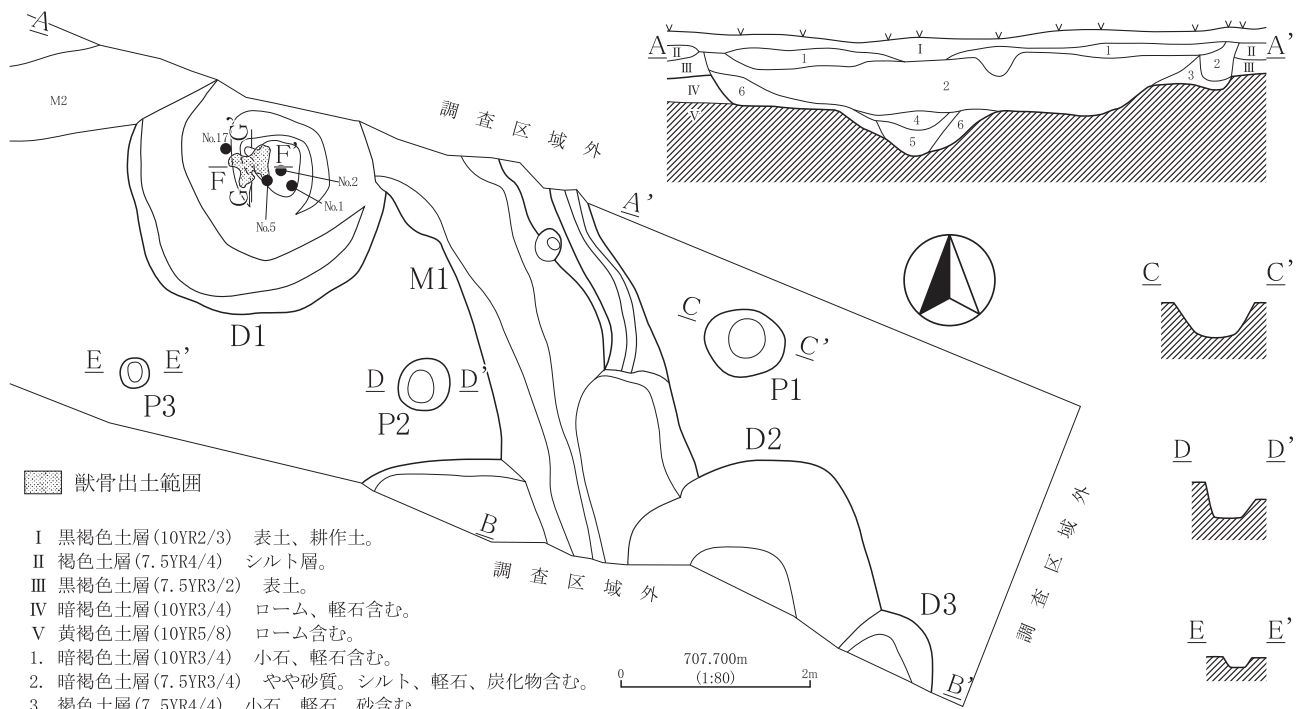
時期は、出土遺物の特徴から平安時代9世紀頃と考えられる。獣骨に関しては、土器とほぼ同一層内に混在して出土していたことから、平安時代としたい。

D 2号土坑は調査区東側の南端に位置し、南側半分は調査区域外となる。規模は東西が2.6m、南北は調査規模で1.7mを測る。形状は円形に近い隅丸の方形と考えられ、すり鉢状に掘り込まれている。深さは1.5mを測る、大型の土坑である。

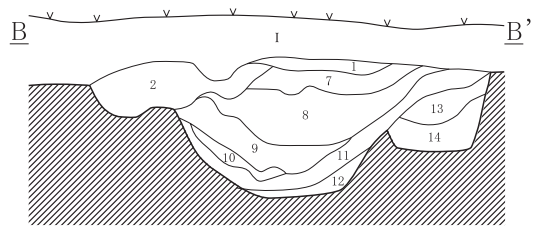
遺物は弥生土器・土師器・須恵器の小破片が出土した。時期は断定できなかった。

D 3号土坑は調査区東側の南端に位置し、南側半分は調査区域外となる。D 2号土坑と切り合い関係にあり、D 2号に切られる。規模は東西1m、南北は調査規模で0.6mを測る。形状は円形と考えられ、深さは0.9mを測る。

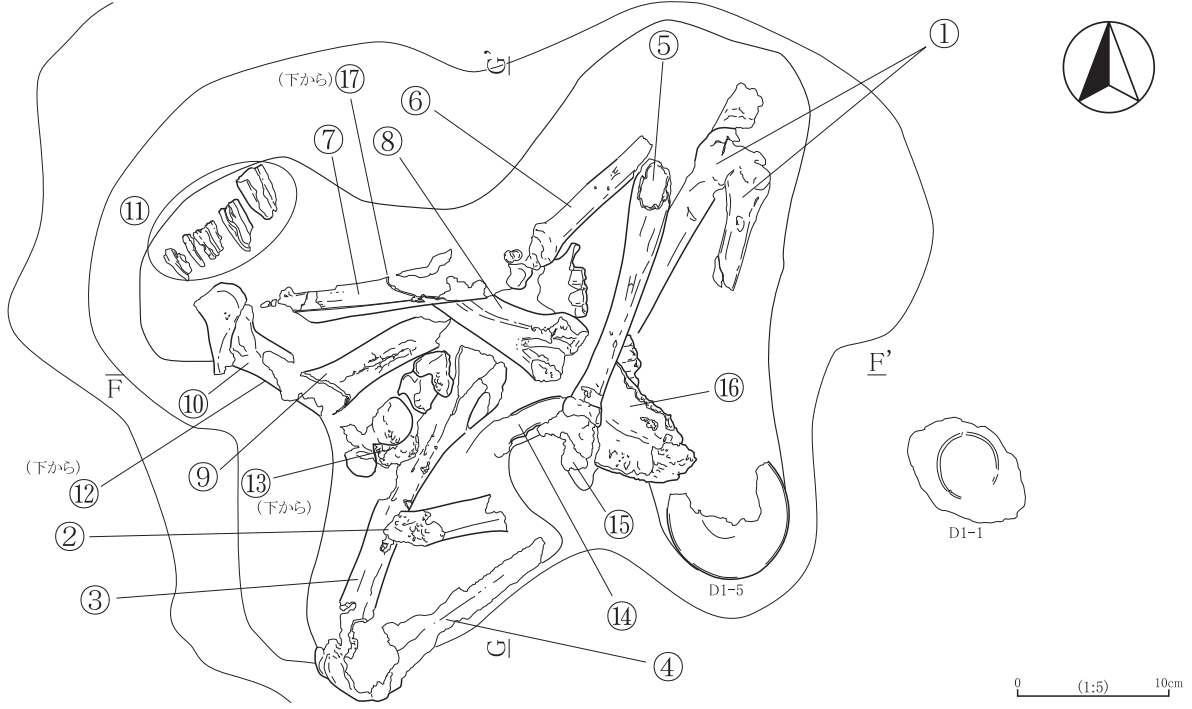
遺物は出土しなかった。時期は断定できなかった。



- 獣骨出土範囲
- I 黒褐色土層(10YR2/3) 表土、耕作土。
 - II 褐色土層(7.5YR4/4) シルト層。
 - III 黒褐色土層(7.5YR3/2) 表土。
 - IV 暗褐色土層(10YR3/4) ローム、軽石含む。
 - V 黄褐色土層(10YR5/8) ローム含む。
 - 1. 暗褐色土層(10YR3/4) 小石、軽石含む。
 - 2. 暗褐色土層(7.5YR3/4) やや砂質。シルト、軽石、炭化物含む。
 - 3. 褐色土層(7.5YR4/4) 小石、軽石、砂含む。
 - 4. 褐色土層(7.5YR4/3) 小石、軽石、砂含む。
 - 5. 褐色土層(7.5YR4/3) 軽石、砂、小石、黒色土ブロック含む。
 - 6. 暗褐色土層(10YR3/3) 黒色土多く、砂、軽石、小石含む。
 - 7. 黒褐色土層(7.5YR3/2) 砂、黒色土含む。
 - 8. 暗褐色土層(10YR3/4) やや砂質。小石、軽石、シルト含む。
 - 9. 褐色土層(7.5YR4/4) 砂、小石、シルト、ローム含む。
 - 10. 黒褐色土層(10YR2/3) 黒色土多く、小石、砂、ロームをやや多く含む。
 - 11. 褐色土層(7.5YR4/4) ロームが9より少なく、砂、小石、シルト含む。
 - 12. 褐色土層(10YR4/6) ローム多く含む。
 - 13. 暗褐色土層(10YR3/4) 砂、小石、軽石、ロームブロック含む。しまりなし。
 - 14. 暗褐色土層(10YR3/3) 砂、小石、軽石、ロームブロック含む。



D 1・2・3号土坑・M1号溝状遺構・ピット実測図



D 1号土坑出土獣骨実測図

M1・2号溝状遺構

溝状遺構は2条発見された。

M1号溝状遺構は調査区東側でほぼ南北方向に存在し、D1・2号土坑を切る。規模は東西1.9m、南北は調査規模で3.9m、深さは最深で50cmを測る。

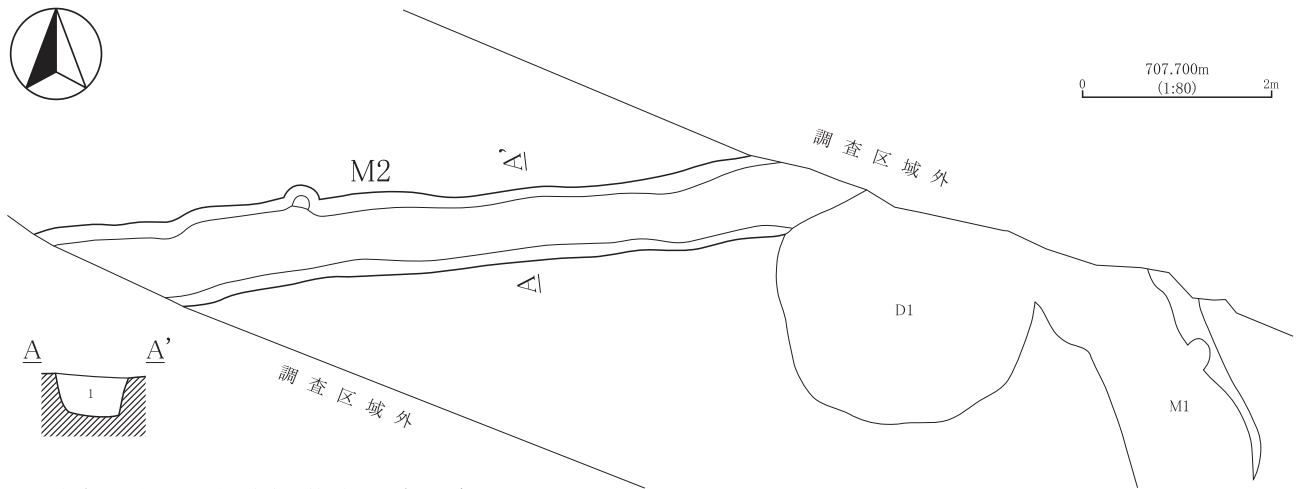
遺物は弥生土器・土師器が出土したが、混入品と考えられる。

時期は、平安時代と考えられるD1号土坑を切ることから、平安時代以降の遺構としたい。

M2号溝状遺構は調査区西側でおよそ東西方向に存在し、D1号土坑を切る。規模は東西は調査規模で8.8m、南北0.9m、深さは最深で46cmを測る。

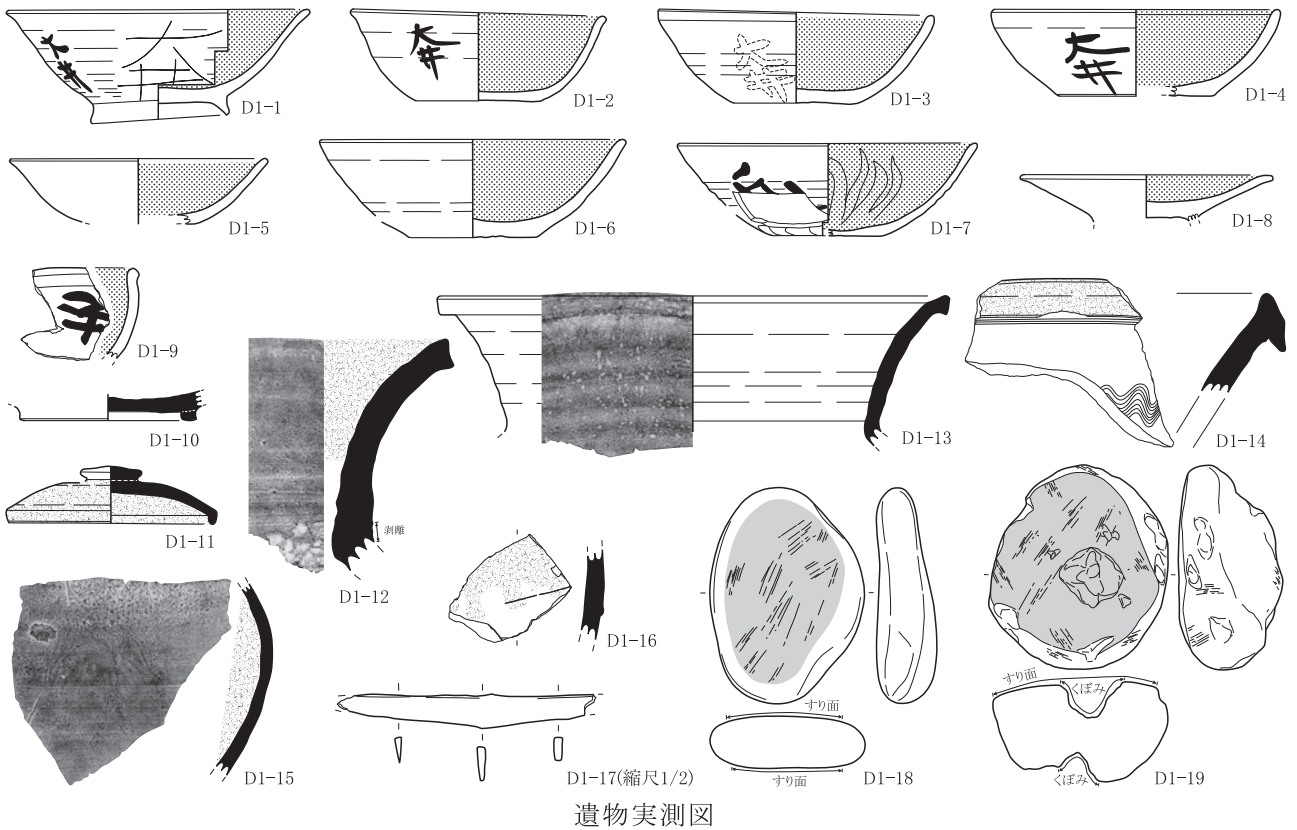
遺物は弥生土器・土師器・須恵器の小破片が出土したが、混入品と考えられる。

時期は、平安時代と考えられるD1号土坑を切ることから、平安時代以降の遺構としたい。

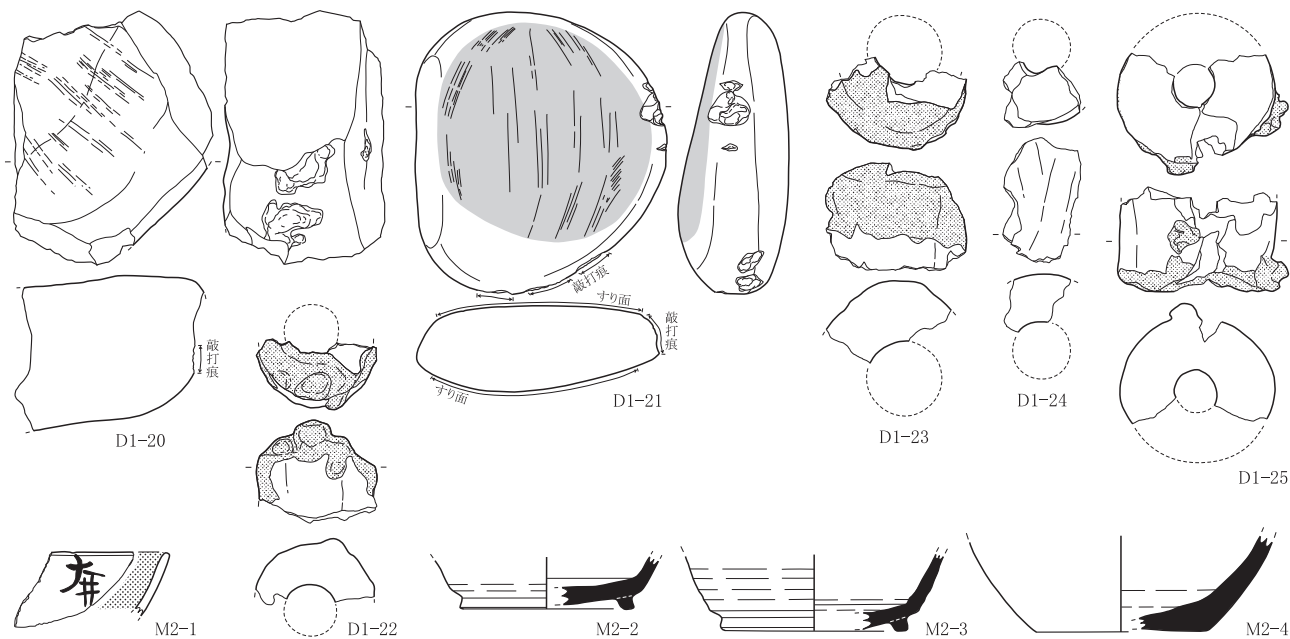


1. 暗褐色土層(7.5YR3/4) やや砂質。軽石、炭化物含む。

M2号溝状遺構実測図



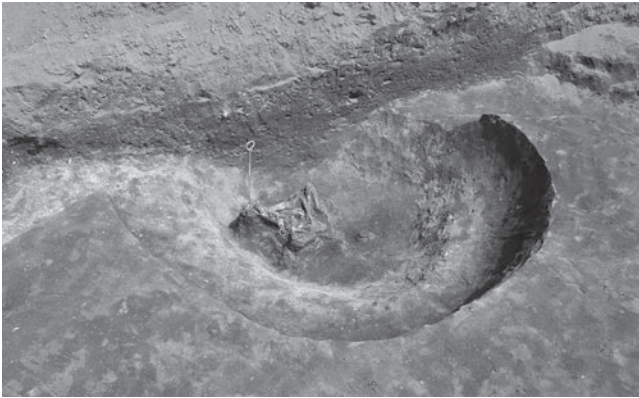
遺物実測図



遺物実測図 2

番号	器種	器形	口径	底径	器高	調整・文様・備考	残存率・部位	色調
D1-1	土師器	碗	16.1	7.4	6.1	内面黒色処理 外面ロクロナデ、刻書「大井」 底部回転糸切り後高台貼付	99%	外面7.5YR7/4 にぶい・橙色
D1-2	土師器	坏	13.6	6.5	4.9	内面黒色処理、ミガキ 外面ロクロナデ、墨書「大井」 底部回転糸切り	90%	外面5YR7/4 にぶい・橙色
D1-3	土師器	坏	14.6	6.3	5.0	内面黒色処理、ミガキ 外面ロクロナデ、不鮮明な墨書 「大井」? 底部回転糸切り	60%	外面5YR6/6 橙色
D1-4	土師器	坏	(15.3)	(8.0)	4.6	内面黒色処理、ミガキ 外面ロクロナデ、墨書「大井」 底部回転糸切り	30%	外面7.5YR7/4 にぶい・橙色他
D1-5	土師器	坏	(13.7)	-	[3.5]	内面黒色処理、ミガキ 外面ロクロナデ	65%	外面5YR7/4 にぶい・橙色他
D1-6	土師器	坏	(16.2)	6.7	[5.2]	内面黒色処理、ミガキ 外面ロクロナデ	40%	外面7.5YR8/2 灰白色
D1-7	土師器	坏	15.9	(5.8)	4.9	内面黒色処理、放射状暗文、ミガキ 外面ロクロナデ、墨書 あり、底部周縁ヘラケズリ 底部回転糸切り後ヘラ調整	60%	外面7.5YR7/4 にぶい・橙色
D1-8	土師器	皿	13.4	-	[2.4]	内面黒色処理、ミガキ 外面ロクロナデ 底部高台欠損	55%	外面7.5YR6/4 にぶい・橙色
D1-9	土師器	坏	-	-	[4.8]	内面黒色処理 外面ナデ、墨書あり	口縁破片	外面5YR6/4 にぶい・橙色他
D1-10	須恵器	鉢?	-	(9.3)	[1.6]	内外面ロクロナデ 底部回転糸切り後高台貼付	底部	外面10Y6/1 灰色
D1-11	須恵器	蓋	(11.2)	つまみ径3.3	3.0	内外面ロクロナデ、施軸 つまみ貼付	30%	外面10YR1.7/1 黒色
D1-12	須恵器	甕	-	-	[13.2]	内外面ロクロナデ、施軸	口縁～頸部破片	外面7.5YR2/1 黒色
D1-13	須恵器	甕	(26.8)	-	[7.9]	内外面ロクロナデ 外面自然釉付着	口縁～頸部破片	外面5PB5/1 青灰色
D1-14	須恵器	甕	-	-	[9.1]	内外面ロクロナデ 外面自然釉付着、櫛掻波状文	口縁～頸部破片	外面10YR1.7/1 黒色
D1-15	須恵器	壺	-	-	[10.2]	内外面ロクロナデ、施軸	胴部破片	外面2.5YR4/3 にぶい・赤褐色他
D1-16	灰釉陶器	壺?	-	-	[4.8]	内面ヘラ調整 外面ロクロナデ、施釉(漬け掛け)	胴部破片	外面7.5Y7/1 灰白色他
D1-17	鉄器	刀子	長さ[6.8]	幅[0.9]	厚さ[0.25]	重量[3.81]g	両端欠損	
D1-18	石器	磨石	長さ11.5	幅8.2	厚さ3.2	正裏にすり面 重量414.21g	-	
D1-19	石器	凹石	長さ10.8	幅9.8	厚さ5.3	軽石製 正面に顕著なすり面、径3.3×3.2cm・深さ1.9cmのくぼみ 裏面に径2.5×1.9cm・深さ1.1cmのくぼみ 重量154.03g	-	
D1-20	石器	抄・蔽石(台石)	長さ[13.4]	幅[10.6]	厚さ[8.5]	正裏にすり面 周囲欠損 重量1443.00g	-	
D1-21	石器	すり・蔽石	長さ14.9	幅13.3	厚さ5.4	正裏にすり面 辺縁に蔽打痕 重量1495.00g	-	
D1-22	土製品	羽口	内径(2.8)	-	-	内外面ナデ 上端部に鉄分付着 重量[95.17]g	-	
D1-23	土製品	羽口	内径(3.8)	-	-	内外面ナデ 上端部に鉄分付着 重量[111.51]g	-	
D1-24	土製品	羽口	内径(3.0)	-	-	内外面ナデ 重量[56.16]g	中間部分か?	
D1-25	土製品	羽口	内径(2.2)	外径(8.0)	-	内外面ナデ 鉄分付着 重量[173.30]g	末端部分か?	
M2-1	土師器	坏	-	-	[3.6]	内面黒色処理 外面ナデ、墨書「大井」	口縁破片	外面5YR6/6 橙色
M2-2	須恵器	壺?	-	(9.2)	[2.7]	内外面ロクロナデ 底部高台貼付	底部破片	外面5Y5/1 灰色
M2-3	須恵器	壺?	-	(9.9)	[4.0]	内外面ロクロナデ 底部ナデ、高台貼付	底部破片	外面7.5Y4/1 灰色
M2-4	須恵器	甕	-	(9.1)	[5.1]	内外面ロクロナデ 外面ヘラナデ 底部ヘラケズリ	底部破片	外面10YR7/1 灰白色

遺物観察表



D 1 号土坑全景（南西から）



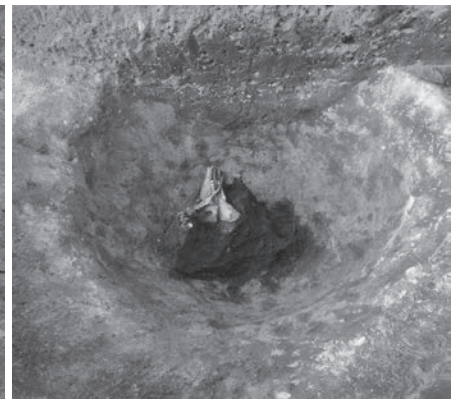
D 1 号土坑完掘状況（南西から）



D 1 号獣骨出土状況 第 1 面



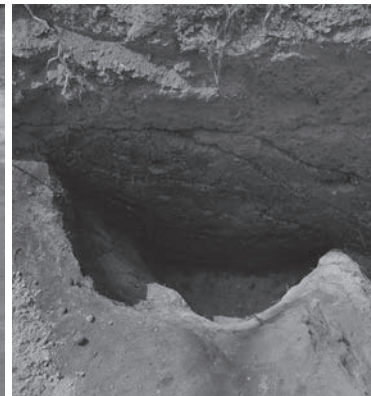
D 1 号獣骨出土状況 第 2 面



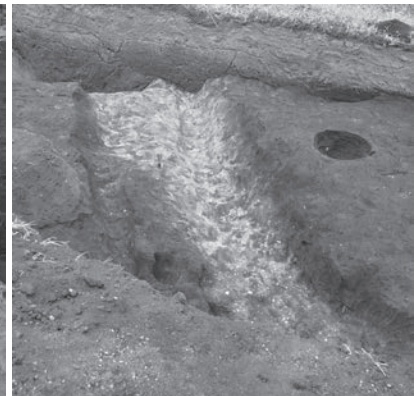
D 1 号獣骨出土状況 第 3 面



D 2 号土坑全景（北東から）



D 3 号土坑全景（北から）



M 1 号溝状遺構全景（北から）



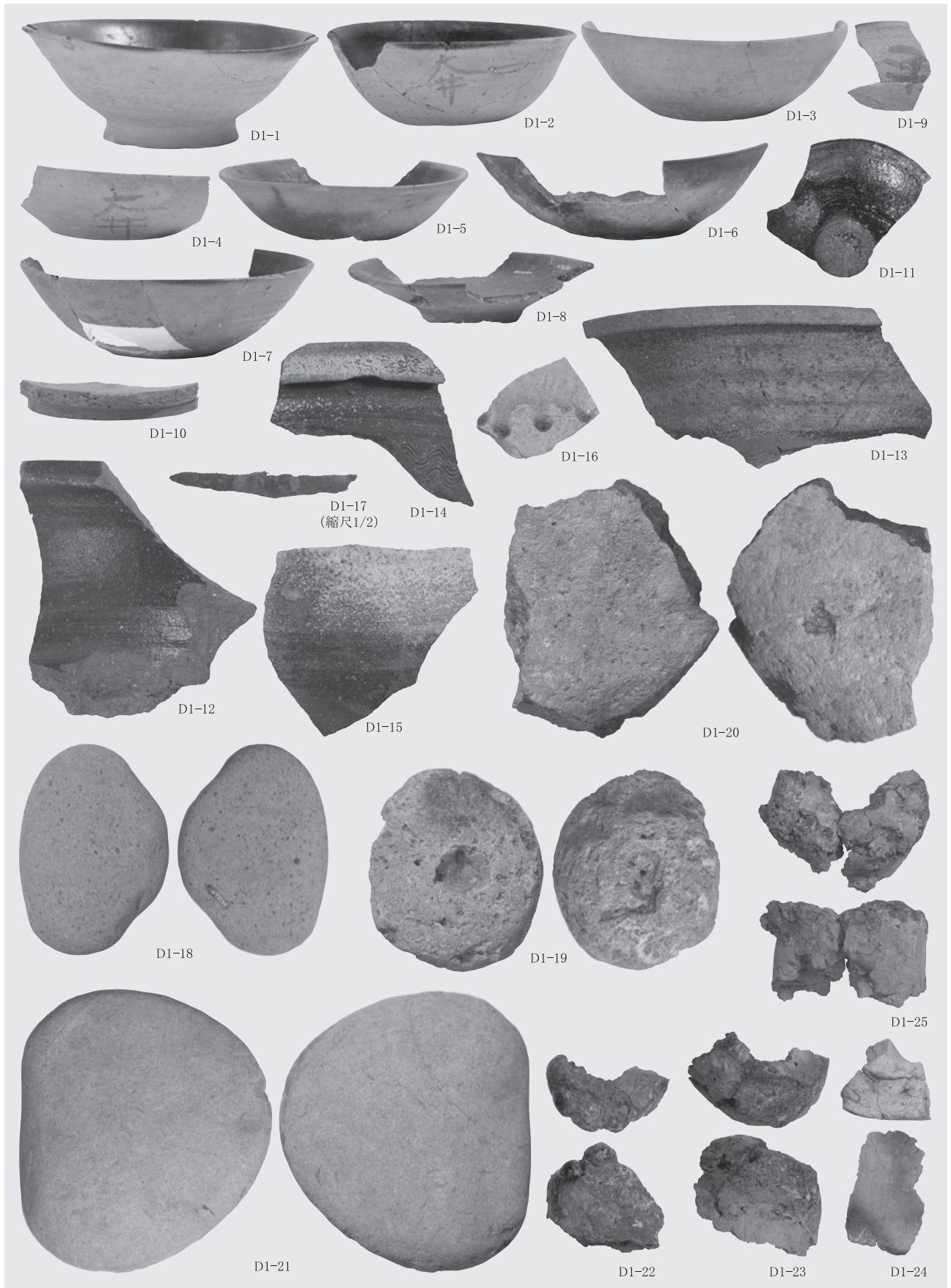
M 2 号溝状遺構全景（北西から）



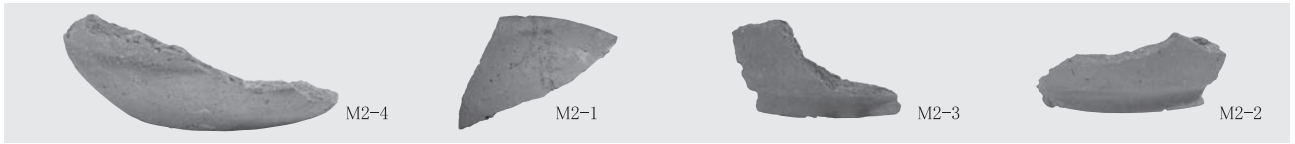
調査区全景（南東から）



調査風景



D 1 号土坑出土遺物



M 2 号溝状遺構出土遺物



D 1 号土坑出土獸骨

ふりがな	にしちかついせきぐん にしちかついせきじゅういち							
書名	西近津遺跡群 西近津遺跡XI							
副書名	—							
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第254集							
編著者名	上原 学							
編集機関	佐久市教育委員会 文化振興課							
所在地	長野県佐久市中込2913 Tel. 0267-63-5321 FAX 0267-63-5322							
発行年月日	平成30年(2018) 3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
にしちかつ いせき じゅういち	さくし ながとろ あざ もりした	20217	29	36° 17' 00"	138° 27' 27"	20170828 ～ 20170831	70㎡	宅地造成
西近津遺跡XI	佐久市長土呂 字森下 1771-4、1772-1							
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
西近津遺跡XI	集落	平安時代	土坑3基、溝状遺構2条 ピット		土器(弥生土器・土師器・ 須恵器)、鉄器、石器、 土製品、獣骨		—	
要約	田切り地形台地西端に位置する。 平安時代の土坑及び平安時代以降の溝状遺構の調査を実施した。 土坑からは古代佐久郡の郷名の一つである「大井」と記された墨書土器が多数出土しており、関連が窺われる。							

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第254集

西近津遺跡群 西近津遺跡XI

平成30年(2018) 3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市中込3056

社会教育部 文化振興課 文化財事務所

〒385-0051 長野県佐久市中込2913

Tel.0267-63-5321

印刷所

キクハラインク株式会社